

経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県高松市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透I 訓ガ	救臨感へ地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
429,189	25,109	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

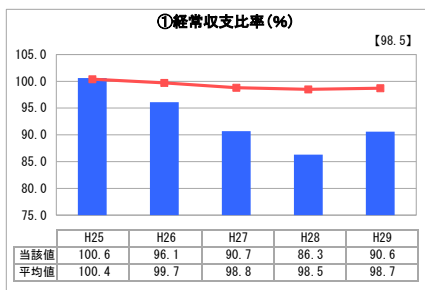
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 ガ…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
341	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
70	6	417
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
237	-	237

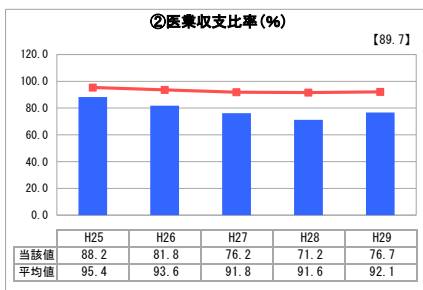
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

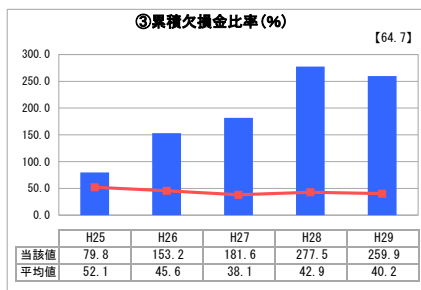
1. 経営の健全性・効率性



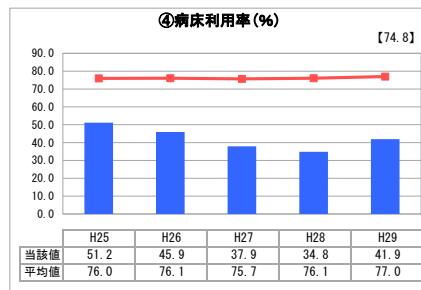
「経常損益」



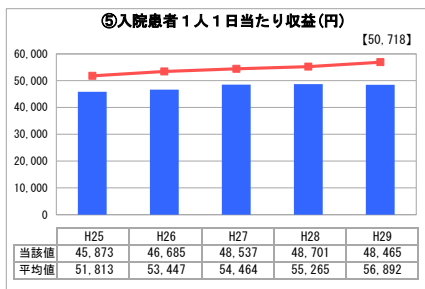
「医業損益」



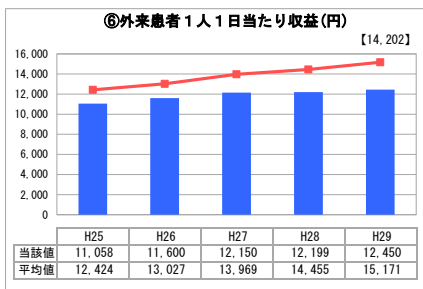
「累積欠損」



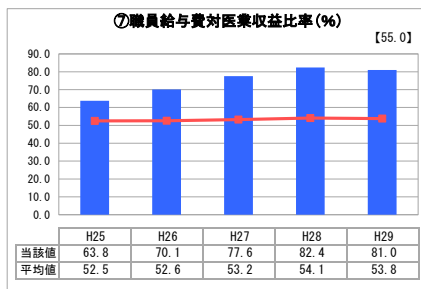
「施設の効率性」



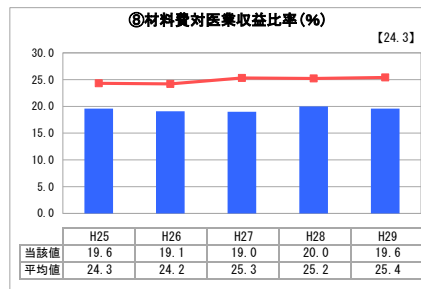
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

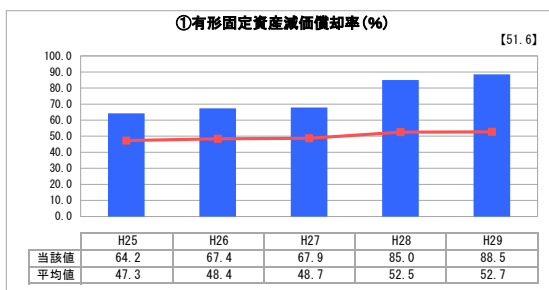


「費用の効率性①」

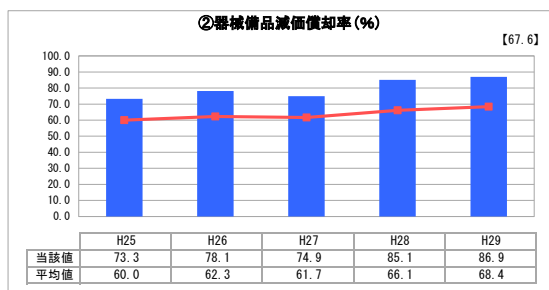


「費用の効率性②」

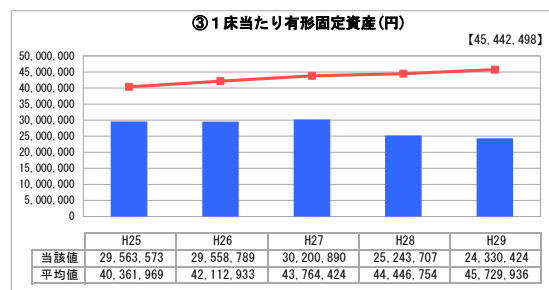
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

急性期医療を担う中核病院として、地域医療機関との連携を図りながら、良質な医療を提供することはもとより、公立病院として、救急医療や、がん治療など専門医療、実習生等の受け入れによる人材育成など、採算性等の面から民間医療機関では困難な医療サービスの提供に努めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率、③累積欠損金比率については、依然として類似病院平均値を大きく下回った（③、⑦については上回った）ものの、前年と比較すると、改善している。これは常勤医師の増加に伴う診療体制の充実に加え、「救急受入体制」の強化や、「地域包括ケア病棟」を開設したことによるものであるが、年度前半での患者数の伸び悩み等が影響し、経営状況の大幅な改善には至らなかった。なお、③累積欠損金比率が大幅に高いことについては、資産の収益性の低下により減損会計を適用し、多額の特別損失を計上したことによるものであり、今後は減価償却費が減少し、損益の改善が見込まれる。今後においては、更なる医師確保や、診療体制の強化で、新規患者の確保を図り、病院経営の健全化に努めたい。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②器械備品償却率については、類似病院平均値を大きく上回っている。これは、28年度に減損会計を実施したこと、償却対象の有形固定資産の帳簿価格を減額したことや、平成30年9月に新病院へ移転するため、資産の更新を控えたためである。このため、新病院となる30年度には数値の大幅な改善が見込まれる。

全体総括

近隣医療機関の増設が進む中、新病院の建設が遅れたこと、また常勤医師増員の効果が現れるまで、想定していた以上に時間がかったことから、平成29年度においても厳しい経営状態となった。経常収支比率は26%以降、継続して10%未満、病床利用率においても50%前後という低水準を推移しており、抜本的な改革が必要不可欠である。30年度においては、29年度に策定した第3次高松市市民病院事業経営健全化計画（H30～32）において定められた、再編・ネットワーク化として、高松市立市民病院と香川診療所を統合した高松市立みんなの病院が開院することで、病床利用率等の経営指標は一定程度、改善される見込みである。ただ、新病院への移転に合わせた患者数の調整による収益減や、施設規模拡大による経費増も見込まれており、厳しい経営状態が予想されるが、これまで以上に良質な医療の提供に努めることで患者数の更なる増加を図り、適正な病院運営に取り組みたい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

香川県高松市 市民病院塩江分院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	訓	^
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
429,189	3,621	第2種該当	20:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

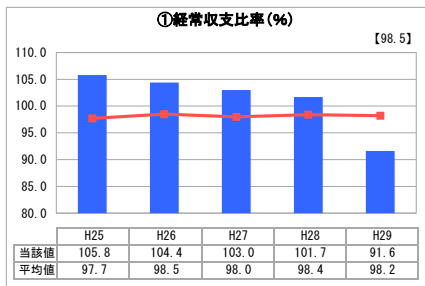
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	87	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	87
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	67	67

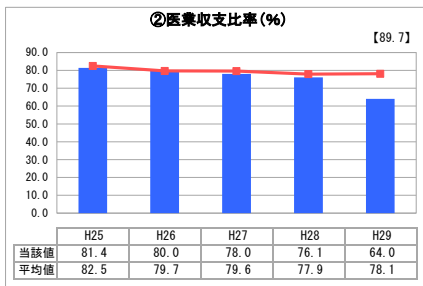
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

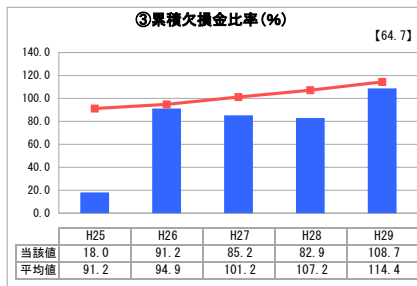
1. 経営の健全性・効率性



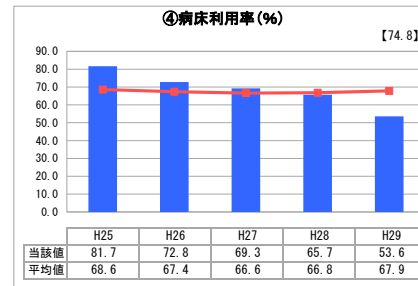
「経常損益」



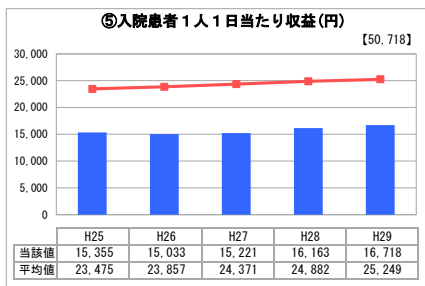
「医業損益」



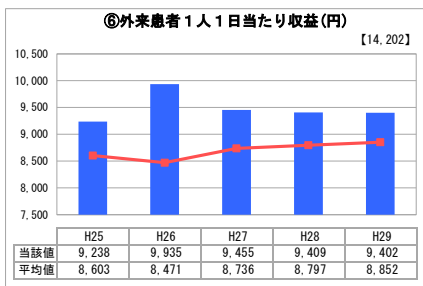
「累積欠損」



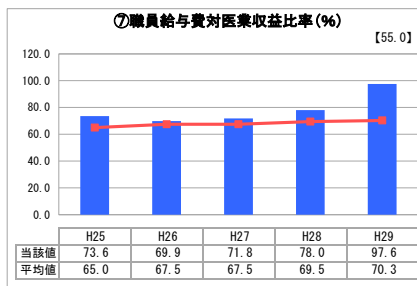
「施設の効率性」



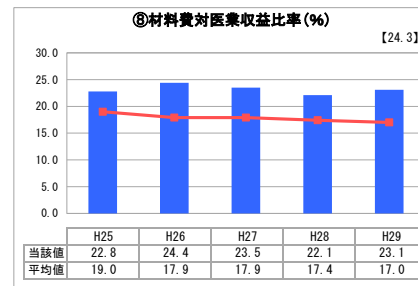
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

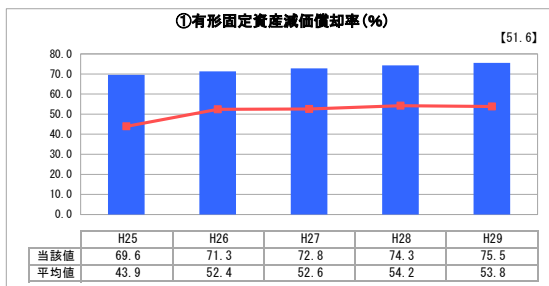


「費用の効率性①」

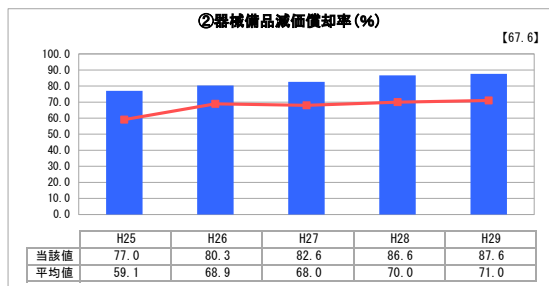


「費用の効率性②」

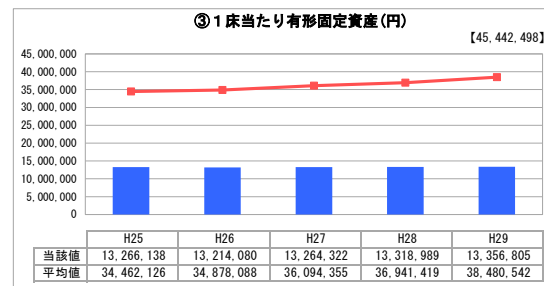
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

塩江地域唯一の医療機関としての責任を果たすため、住み慣れた自宅で家族の負担を軽減しながら安心して療養できるよう、「在宅療養支援病院」として、医師、看護師が24時間・365日体制で患者の在宅療養を支援している。また、訪問診療や訪問看護を始め、歯科医師や理学療法士等、多職種が地域に出向き、専門性を活かした活動の充実のほか、交通手段を持たない地域住民のための患者送迎バスの運行など、職員全員で地域を支える「地域まるごと医療」を実践している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率、③累積欠損金比率、⑦職員給与費対医業収益比率については、前年度から悪化し、類似病院平均値を下回る（⑦は上回る）結果となった。医業収益の減少が主要因である。
④病床利用率の低下からも分かるように、塩江地区の人口減少のほか、入院患者の死亡や介護保険施設への入所などが要因となり、患者数が大きく減少しており、それが医業収益に影響を与えている。
⑤入院患者1人1日当たり収益について、類似病院平均値を下回っているものの、塩江分院は療養病床のみであり、患者単価が急性期病院と比べて低いことから、一般病床を含む類似病院平均値を上回っていることは困難である。

経営の健全化に向けて、患者数確保に努めなければならない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②器械備品償却率については、類似病院平均値を上回っており、類似病院よりも老朽化が進んでいることが分かる。
③1床当たり有形固定資産についても、類似病院平均値を大きく下回っており、施設設備への投資が平均よりも少ない。
塩江分院は、30年度に開院するみんなの病院の附属医療施設として、観光施設と一体的に整備することで検討を開始しているところであり、整備完了までは、現有設備の適切な維持管理に努めたい。

全体総括

患者数の減少等により、29年度において、5年ぶりに赤字となった。人口減少、高齢化が進んでいるという地域の特性上、大幅な患者数の増加は困難と思われるが、できる限りの患者確保に向けた取組が必要である。

29年度は経常収支比率が100%未満であり、病床利用率が3年連続で70%未満と、医療機能が十分に発揮できていない状況だが、平成29年度に策定した第3次高松市病院事業経営健全化計画（H30～32）において、高松市立みんなの病院の附属医療施設として、再編・ネットワーク化を行うことや、経営改善に向けて様々な指標を設定しており、これに基づき、経営状態の改善に努めたい。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。